

1 建学の綱領

1. 生徒の人格を陶冶し豊かな教養の基盤を培う
2. 真理を探究し、正義を愛し社会に貢献する人間を育成する
3. 自主・自立の精神に充ち自他の敬愛と協力によって文化の創造と発展に寄与する人材を育成する

2 校訓

校訓 「自主、連帯、創造」

3 学校教育方針

- 連帯感を培い、思いやりのある豊かな人間性を育てる。
- 身体を鍛え、ねばり強い精神を養う。
- 学力を高め、技術を磨き、逞しい生活力をつける。

4 教育目標

昨年度の評価と課題に基づき、今年度から「下関国際の資質の向上」を新たな教育目標とし、「信頼関係の樹立」「情報公開の促進」「生徒主体の学校づくり」を掲げ、授業のあり方、クラス、学年、各校務分掌で目標設定し、全教職員で目標達成に取り組んでいく。

5 本年度のチャレンジ目標と特色ある取組み

昨年度の評価と課題に基づき、今年度から「下関国際の資質の向上」をチャレンジ目標に、特色ある取組みとして①「信頼関係の樹立」、②「情報公開の促進」、③「生徒主体の学校づくり」を掲げ、授業のあり方、クラス、学年、各校務分掌で目標設定し、全教職員で目標達成に取り組んでいく。

- ① 信頼関係の樹立
  - 生徒・保護者・地域・教員、相互の信頼関係の樹立と豊かな心の醸成
- ② 情報公開の促進
  - 学校評価の活用による、説明責任とよりよい学校教育の改善
- ③ 生徒主体の学校づくり
  - ア 少人数指導の拡充とマナトレによる基礎・基本の確実な定着
  - イ 資格取得の促進と合格率の向上
  - ウ 各種ものづくりコンテスト及びインターンシップへの積極的な参加
  - エ 自ら身だしなみを直し、あいさつをする自立心の醸成
  - オ 多様な特性を持つ生徒の社会性の醸成
  - カ 早期の進路実現と就職率100%達成

6 生徒在籍・募集状況

生徒在籍 平成29年5月1日現在

(1) 全日制課程

- ア 学則定員 360名  
在籍 304名 普通科 107名 電子機械科 197名
- イ 募集定員 120名 普通科 40名 電子機械科 80名
- 入学生 99名 普通科 38名(男子13名 女子25名)  
電子機械科 61名(男子61名 女子0名)  
〔普通コース29名 ハンゲルコース 9名〕  
〔機械コース30名 自動車コース31名〕

(2) 通信制課程

- ア 学則定員 160名 普通科 在籍 43名
- イ 募集定員 平成29年度入学生より募集停止(平成30年度末をもって、閉課程)

7 部門別評価

評価領域	評価目標	具体的評価項目	◎ 実行度	◎ 達成度	評価目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望書	☆ 評価
学習指導 (教務)	○基礎・基本の定着 ○教育内容の充実 ○わかる授業の推進	○マナトレ指導による基礎基本の定着 ○生徒による授業評価の活用 ○教員相互研修・互見授業の推進	3	3	マナトレによる学び直しは、各教科とも授業の中で実施したが、教科によっては十分な時間を取れない状況もあった。授業評価に関しては概ね好評であったが、生徒の意見を取り入れた実践も必要と思われる。 1・2学期には、研究授業を3名の教員によって2回ずつ行い、授業技術の向上に役立った。	「学び直し」は、国際高校生徒にとっては大切な学習内容と考える。これをきっかりにして、各生徒が学習意欲を高めてくれることに期待したい。 研究授業による教員の資質・能力向上をぜひ、図っていただきたい。教員間による互見授業(授業公開)も考えてみてはどうだろうか。	B
生徒指導 (生徒)	○あいさつの励行 ○正しい服装と言葉遣い ○規範意識(マナー・ルールの遵守)	○職員入室時の服装や言葉遣いの指導状況 ○定期検査(服装・頭髮点検状況) ○立哨報告(交通安全・あいさつ運動など)	2	2	立哨報告と定期検査に関しては実施できた。しかし、毎日のクラスでの検査には差があり真面目に行っている教員が間違っているかのような批判を受けることもある。 挨拶の励行にも差があり来年度は、職員室だけでなく、保健室、廊下など、「いつでも、どこでも、だれでも」同じ生徒指導をできることが目標である。	生徒指導で基本となる「教員間の共通理解」が、保護者への信頼関係の鍵になると考える。大変だとは思いますが、「意思統一」に御努力をお願いしたい。 挨拶については、以前よりも気持ちの良い挨拶ができる生徒が増えてきている。評価できる。	C
進路指導 (進路)	○キャリア教育体制の見直し ○就職指導の充実 ○進学指導の充実	○進路指導部と連携した各担任や学年会でのキャリア教育の見直し・実施状況 ○3学年の就職・進学状況(就職率100%)	4	4	一年次は「しものせき 未来 創造 job 7:7」、二年次では「仕事体験型県内進学7:7」、三年次では「進路セミナー」等を系統的・計画的に実施し、進学先や企業の魅力ある情報を生徒に伝え進路意識を高めるとともに、学年会や各担任とも情報共有し連携を深めている。 各担任をはじめ学年会が生徒一人ひとりの進路希望を的確に把握し、能力や適性等に基づいた進路指導を行い、12月末には就職・進学ともに100%を達成することができた。	今の下関国際高校の強みは、やはり「出口保障100%」である。来年度も早い時期での達成に期待したい。 また、並行して多様化してきた進路に対し、進学指導も新たな国際高校の課題である。しっかり取り組んでほしい。	B
特別活動 (生徒)	○部活動の充実 ○学校行事の充実 ○ボランティア活動への参加	○部活動加入率、活動度の現状 ○学校行事への満足度状況 ○清掃活動や通学路のゴミ収集活動 ○生徒会活動状況など	2	2	部活動は運動部の活躍など躍進の1年であったが、女子の加入できる部活動が必要である。学校行事も下高祭、クラスマッチ、体育記録会など生徒会がより積極的に参加してより良いものに。清掃活動はクラスによって床やロッカーなど清掃できていない所もある。日ごろからゴミ捨て、分別の習慣を身に付けさせる必要がある。自動販売機のタイマー導入や中央廊下のゴミ箱を撤去するなどゴミポイ捨ては減った。	部活動、特に運動部の活躍が全国から注目されており、気持ちが良い。この勢いを校内での特別活動や校外ボランティアなど多方面にも生かさればと考える。	C
保健体育 (保体)	○心身の健康と安全 ○体力の向上 ○欠席・遅刻・早退状況(基本的な生活習慣の確立) ○活発な体育活動	○保健室利用状況 ○交通安全対策などの報告状況 ○スポーツテストの総合判定状況 ○日々の学校・授業への出席状況	3	3	相談を目的に保健室を利用する生徒が多く、限られた時間と場所での対応のため不十分なこともあった。教育相談室の必要性を感じた。 スポーツテストに関しては、総合評価Cの生徒が多く、Aの生徒は学校全体で13人しかいなかった。アンケートによると運動を習慣的に行わない、朝食・睡眠を十分にとらない生徒が多かった。生活習慣の改善が、生徒の健康と出席状況の向上につながると考えられる。	生徒の実態から考えると、教育相談活動の更なる充実をお願いしたい。 基本的な生活習慣が確立されていない生徒に対する保健面からの支援・指導が必要と思われる。	C
教育相談 (教相)	○相談体制の充実 ○特別支援教育の確立	○スクールカウンセラーの活用状況 ○クラス担任への悩み相談状況 ○支援を必要とする生徒への対応状況	3	2	今年度、教育相談部を年度途中で立ち上げていただくことができた。 SCの黒瀬先生も毎週火曜日の午前中來校していただくことができ、カウンセリングを受ける生徒も増えてきたように思えた。 しかし、限られた時間の中でカウンセリングなので、積極的(未然防止的)な活動ができなかった。保護者への情報提供も充分ではなく、来年度に向けての課題として、情報の共有も含めて受けとめていきたい。	上記と重なるところもあるが、教育相談活動にはやはり、ハード面・ソフト面両面からの充実を図ってほしいものである。これも信頼できる国際高校づくりの重点課題の一つと考える。 教員研修も年間通して、複数回の実施を希望する。	C
人権教育 (教務)	○人権教育の推進 ○いじめ・いじりの未然防止とその対応 ○体罰の禁止	○LHRやSHRでの対策などの取組み状況 ○いじめ・いじり及び体罰アンケート調査結果などの活用 ○問題発生時の迅速な対応、問題解決	3	3	昨年度よりも人権に関する問題は減少したと思われる。 いじめアンケートなどによる生徒への意識付けができてきていると思われる。 ただし、人権教育の推進という点ではできる部分はまだあると思われる。生徒に対してのみでなく、教職員間での連携等を密にし、私学としての特色をしっかりと残していけばと考える。	人権問題は、学校教育以前の「ヒト」としての教育である。是非とも「弱者」に寄り添うことのできる教育の実践をお願いしたい。	B
生徒募集 (総務) (教頭)	○募集定員の充足	○中学校への説明会 ○オープンスクールの開催状況 ○受験(出願)状況 ○入学状況	3	3	体験入学については、第一回に例年以上の参加者があった。野球部の選抜出場のため、中学2年対象のオープンスクールは中止となった。体験入学に参加した生徒が入学に結びつく傾向にある。ぜひ、そういう機会を設定していきたいと考える。	「体験入学」参加生徒の新入学生として結びついてきていることは、下関国際高校が評価されてきていることの裏付けともなることである。この機会をチャンスととらえ、生徒募集にもうひと頑張り期待したい。	B
業務取組みの改善	○学校行事の見直し ○効率的な校務組織と業務の見直し ○諸会議の見直し、会議時間の短縮化 ○休暇や回復措置の積極的な取得	○年間行事予定の見直しと早期の計画化がなされたか ○校務分掌の組織化と業務の見直しがなされたか ○教職員に対し、積極的な休暇・回復措置の取得がなされているか	2	2	年間行事の立案・企画への指導が遅れ、会議での協議が為されないまま行事が進んでいくことに大きな課題を残した。 運動部の全国大会出場や優勝など生徒のめざましい活躍等に手間取り、分掌の組織化、業務見直しが後手にまわってしまった。来年度、早い段階での見直し検討を行っていきたいと考える。 前述の中、教職員については疲労、ストレスが溜まらないよう積極的に休暇・回復措置を取ってもらうようにしている。	「働き方改革」など、今注目されている校務組織の見直しなど教職員に対し過重負担ストレスが溜まらないよう配慮するとともに、積極的に休暇・回復措置がとりやすい職場環境を実現していただきたい。	C

◎「実行度」・「達成度」評価基準

- 4：十分、実行できた・達成された (80～100%)
- 3：ほぼ、実行できた・達成された (60～79%)
- 2：やや、不十分であった (30～59%)
- 1：不十分であった (0～29%)

☆「学校関係者評価」評価基準

- A：十分、評価できる (80～100%)
- B：評価できる (50～80%)
- C：来年度に期待したい (50～80%)